

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Seamless Support Labs ライズ・スプレッド(放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2025年10月17日		2025年11月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年10月17日		2025年11月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	シームレスな支援の提供	学校卒業後の日中活動の場の選択肢のひとつである、生活介護事業所が同じ建物内で事業運営をしている。活動時間とフロアは異なるため、利用者同士の交流機会は少ないが、職員は支援を提供するにあたり、将来がイメージしやすい環境となっている。長期休暇時には、高等部の児童が日中活動の1つである、カフェの体験活動を実施している。	・利用者にとっての「自立」を支援するために、年齢や状態像に応じて必要なプログラムの検討、実施に繋がるようにしていく。 ・長期休暇時等を利用して、体験の機会の場を設定する。
2	医療的ケアがあっても様々な体験の機会がある	25mの室内プールがあるため、季節問わずプール活動を実施できる環境となっている。呼吸器を使用している児童でも、外部講師・支援員・看護師・療法士と多職種で連携して入水できるようにしている。 事業所の立地を活かし、期間限定のイベント等にも積極的に参加できるようにしている。	・個々の疾患や特性、性格を理解したうえで、引き続き様々な活動プログラムを立案して実施していく。 ・様々な活動を通して、本人の好き嫌い(得手不得手)や興味関心のあるものを把握し、自分自身で選択する経験を多く積める機会を設けていく。
3	施設内の環境が整っている	活動室以外に、25mの室内プール、遊戯室、園庭、デジリハと活動を実施するにあたり、施設内の環境・設備が整っている。活動室で実施する個別・集団活動の他に、様々な活動を提供している。	・活動における利用者のアセスメントや評価をしっかりと行い、それぞれに必要な活動を提供できるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族(きょうだい)支援	児童発達支援/放課後等デイサービス/生活介護 合同での年2回の家族連絡会、イベントを開催しているが、人数も多く交流の機会としては十分ではない。また、イベントにはきょうだいの参加もあるため、内容は工夫しているものの十分ではない。	・合同で実施しているものは残しつつ、事業所毎での交流の機会を設定していく。 ・勉強会の内容についても、それぞれの事業体で保護者が求めているものを把握して実施していく。 ・きょうだい児支援者の研修を職員が受講し、きょうだいをメインとしたイベントの計画、実施を行う。
2	地域との連携・資源の活用	施設内の環境が整っていて多様な活動を提供できる反面、地域の同年代との交流の機会や資源の活用が十分にできていない。	・事業所の立地を活かし、施設外での活動機会を検討していく。 ・長期休暇時等を利用して、公共交通機関を使用している外出機会を計画的に設定し、体験の場や機会を増やしていく。
3	人材育成	医療的ケアを必要とし、最重度と言われる児童が多い。そのため、支援員は発達面だけでなく医療的な部分の理解を深めた上で、放課後という短い時間の中で個々にあった支援を提供する必要がある。	・継続して事業所内研修等を行い、知識・理解を深めていく。 ・経験年数、職種に合わせた外部研修参加の機会を計画的に実施していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Seamless Support Labs ライズ・スプレッド(放課後等デイサービス)			公表日		2026 年 2 月 10 日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容によって活動内容によって室内のレイアウトを変更し、動線等の工夫をすることで適切な支援ができるようにしている。	日によって車椅子の台数や大きさにばらつきがあり、活動スペースが狭くなってしまうことがある。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○			ICT機器等を使用したコミュニケーションにおいて、評価・訓練を実施できる専門職の配置ができていない。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		重症心身障害児が通所することを前提に設計・建設されており、バリアフリー化されている。			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		食事・医療的ケア用品を洗う清潔水道と手洗い・活動物品等を洗う不潔水道を分けて設置をし、使い分けている。 車椅子からおりて横になる際には、小上がりスペースを使用している。			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		活動内容やその日の体調によって個別の部屋や場所を使用できるようにしている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼・夕礼・ケース会議、また普段の会話時より課題・改善点を話し合っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		6ヶ月に1回の面談時に、保護者からの意向を確認するようにしている。	今回が開所して初めての評価アンケートとなるため、意向調査を基に、次年度の行事やプログラムの検討・実施をしていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		機会は設けている。	意見等を把握したうえで、十分な業務改善に繋げるまでには至っていない。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	実施なし			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年2回の法人研修と外部研修への参加、事業所内での研修を実施している。	経験年数等に応じた外部研修参加の機会を設定できるようにしていく。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		法人ホームページにて公開している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		本人や保護者のニーズだけに偏ることなく、各専門職も交えたケース会議を経たうえで、計画を作成するようにしている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ケース会議には事業所全職員が参加するようにし、共通理解のもと支援を提供できるようにしている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察や法人のアセスメントシートを活用し、利用児の状態把握に努めている。	専門職の雇用を行い、フォーマルなアセスメントツールを使用した評価ができると良い。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月1回の月案会議を実施している。			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		小学校低学年・小学校高学年・中学生で分けた活動と、合同で取り組む活動を月案会議にて話し合っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の体調は必ず共有を行い、活動プログラムについても柔軟に変更する等の対応をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		特記事項や支援についての気付きについては当日の夕礼にて共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月に1回の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		絵・写真カード、実物等を提示し、本人に選択してもらい機会を設けるようにしている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		原則保護者を通じて学校の予定(短縮等)を把握し、変則的な予定について対応している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者を通じて成育歴を含めた幼児期の情報収集をおこなっている。	必要に応じて通園先への見学等を実施していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		該当児童がいないため、未実施。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児発・放デイ連絡会へ参加し、区内事業所の状況把握や意見交換等を実施している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			放課後児童クラブに通っている児童も居るが、事業所としては交流の機会を設けることができていない。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会への参加はできていないが、児発・放デイ連絡会への参加はしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		年2回程度家族連絡会を開催し、卒後の生活等についての勉強会を実施している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		毎年の契約時に行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		6ヶ月に1回のモニタリング面談時や普段の送迎時等で保護者と直接話をする機会を設け、意向を確認するようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		助言や情報提供に努めている。必要に応じて、相談支援事業所へ繋げるようにしている。		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		年2回程度家族連絡会を開催、建物全体でご家族も参加できるイベントを開催している。	いずれも、ご家族同士が自発的に交流を図ることを前提としており、適切な機会の確保は十分でない。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		申し出があった際は、迅速かつ適切に対応できるようにしている。		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		日々の連絡帳での情報共有、6ヶ月に1回のモニタリング面談時、イベント時等で情報を共有している。	定期的な通信の発行等で、こまめに児童の様子について共有できるようにしていく。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		毎年の契約時に個人情報の取扱いに関する同意書を交わし、同意された範囲内で情報を使用している。		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		こどもや保護者の状況に配慮しながら、できる限り直接対話を心がけている。必要に応じて、個別に資料の作成等を行って対応している。		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域住民との交流を図れるような事業運営の重要性は理解しているが、実施できていない。	どのような交流方法が良いのか検討をしていく。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			実施日に参加した児童のご家庭への共有となっているため、各ご家庭に周知できるように検討していく。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			契約時に必ず確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			保護者から情報収集している。現在該当児童はいないが、該当児童が居た場合については法人の医療的ケア実施要項に基づき医師の指示書を作成してもらう。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				各ご家庭への周知が不足しているため、漏れなくできるようにしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			事例発生後、再発防止策の検討、改善を行い、作成した報告書はいつでも閲覧可能な場所にて保管している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			法人全体での研修1回、事業所内での研修1回の年2回実施。研修報告書の提出を義務付けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			6か月に1回委員会を開催し、審議記録とやむを得ず身体拘束を行うことについて記載した様式を合わせて法人へ提出して承認を得ている。個別支援計画に記載して面談時に保護者へ説明している。		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 Seamless Support Labs ライズ・スプレッド(放課後等デイサービス)

公表日 2026 年 2 月 10 日

利用児童数 20 名

回収数 14

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12			2	・年に1度で良いので参観日があると良いと感じた(プール活動の見学をした際に思った)	見学については随時受け入れをしているため、その点を保護者の方へ周知していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9	1		4	・活動の様子を見ていないのではっきりと分からない	見学のご希望がある場合、随時対応させていただきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	2		1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13			1	・館内が静かすぎるので、音楽を流す等の工夫をしてほしい(静かすぎると感じた)	個々の利用者の方の性格・障害特性にも配慮した環境設定を検討していきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	1				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	1				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	14					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	1				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	1		1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1	2	5		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13	1				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	2		2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	13	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12	2				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	3	1	1		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	1		4		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	4		5	・定期の発行物を目にしたことがない	定期的な通信の発行等ができるように検討していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7		3	4	・訓練実施について聞いていないため	訓練実施日に利用していたご家庭への周知となっていたため、全体に周知できるようにしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9			5	・訓練実施について聞いていないため	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	3		3	・事故があっていないためわからない	事故等があった場合においては、迅速に適切な対応ができるようにしていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12	1		1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12	1		1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	14					